

CSI

Center for
Social Innovation
Initiatives

2021

Journal

かさねた先に未来がみえる。



“「信州」というフィールドで生きる”

クロストーク

徳谷 柿次郎 (株式会社 HUUUU 代表取締役)

藤岡 聡子 (ほっちのロッヂ 共同代表 / 福祉環境設士)

坂下 佳奈 (ふらっと木曾 コーディネーター)

CSIの様々な活動紹介

4年間を可視化する / 連携協定・知の拠点 /
学生の活躍！ / 公開講座 / 学内での取り組み /
産官民学の連携 / 人材育成 / SDGs / 地域での展開



長野県立大学
THE UNIVERSITY OF NAGANO

What is CSI?

持続可能な社会の実現を目指して

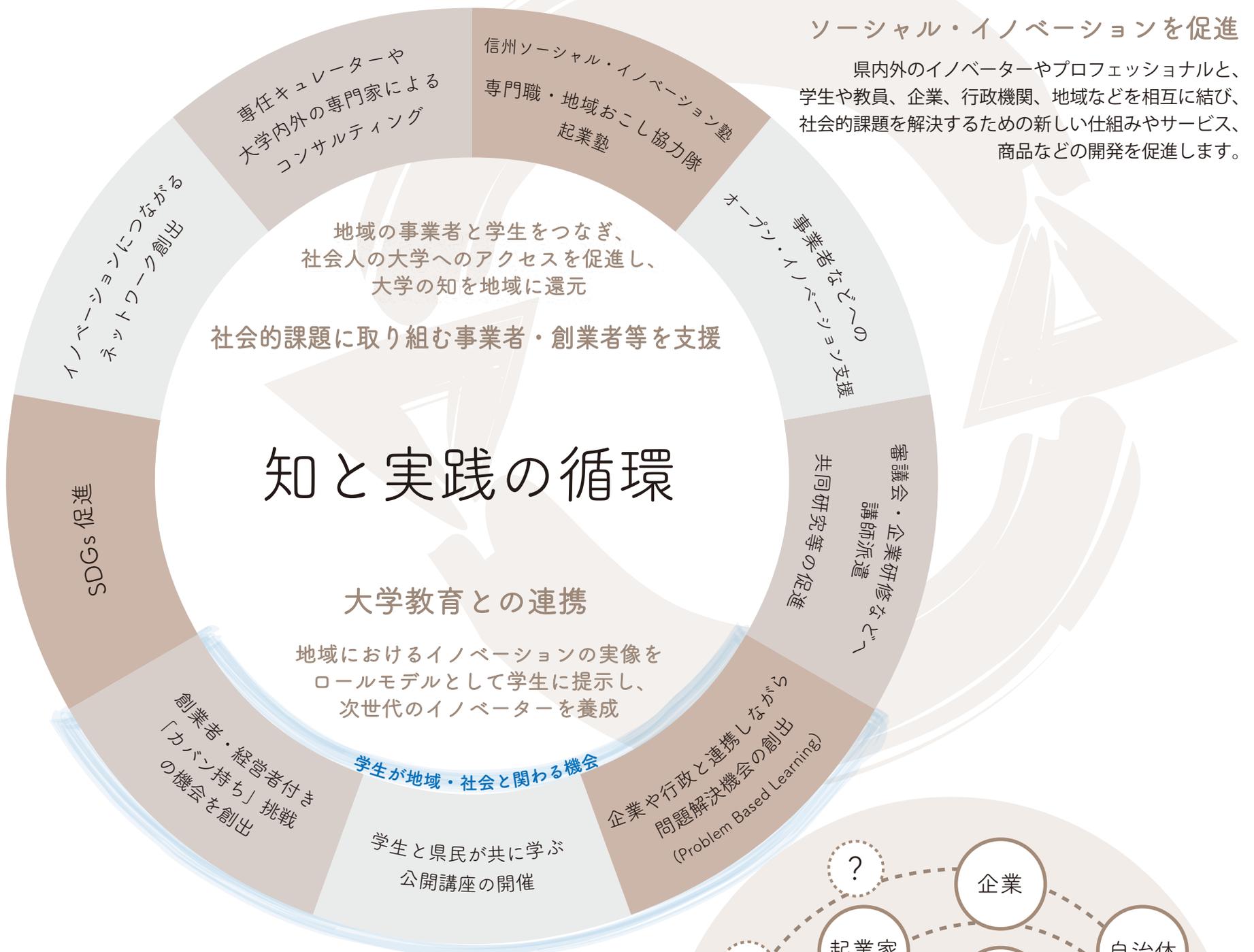
2018年4月、長野県立大学の開学と同時に立ち上がった「ソーシャル・イノベーション創出センター（Center for Social Innovation Initiative, CSI）」は、「社会課題を生まない」「社会課題を解決する」ことに理念を持つ方が、一歩を踏み出せるシステムを醸成し、持続可能な社会の実現に挑戦し続けています。

社会の新しい変化

大学内外の多様な人や知的財産、地域や企業など、多様な人々が絡み合う「オープン・イノベーション」を基本とし、社会の新しい変化「ソーシャル・イノベーション」を促進します。

ソーシャル・イノベーションを促進

県内外のイノベーターやプロフェッショナルと、学生や教員、企業、行政機関、地域などを相互に結び、社会的課題を解決するための新しい仕組みやサービス、商品などの開発を促進します。



CSIへのアプローチ

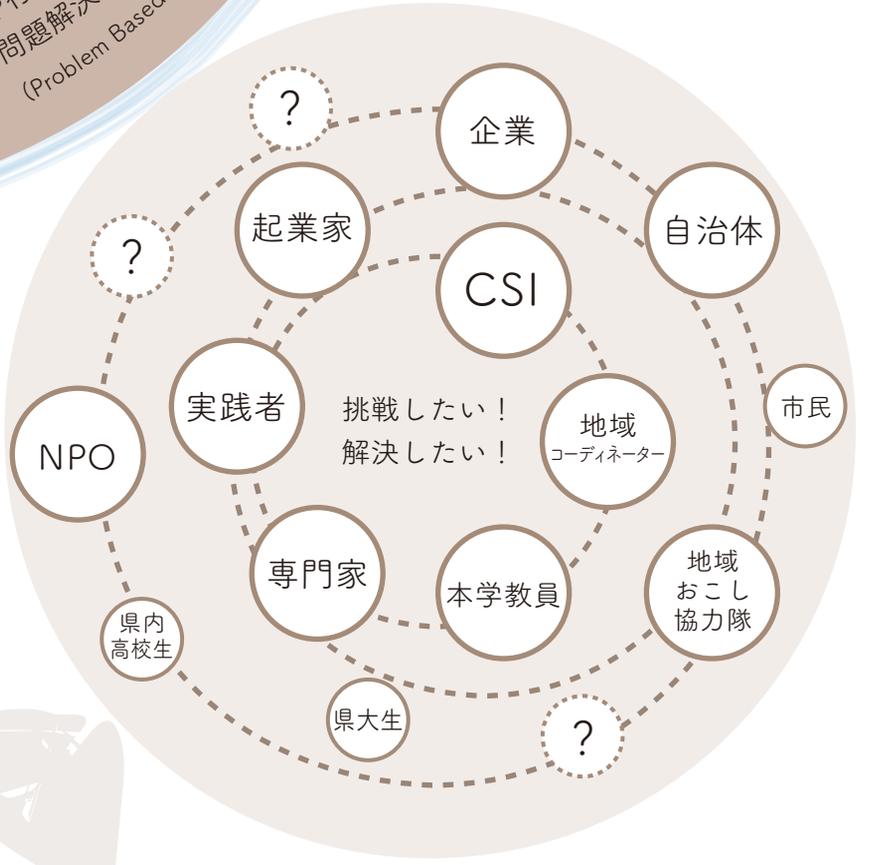
○○に挑戦したい！
○○を解決したい！



ヒアリング・意見交換
csi@u-nagano.ac.jp



CSIを含めた
挑戦するエコシステムへ
接続・サポート



長野県立大学大学院 ソーシャル・イノベーション研究科 開設

2022年4月、本学に大学院が開設されます。ソーシャル・イノベーション研究科(専門職MBA)と、健康栄養科学研究科(修士)の2研究科です。特に、ソーシャル・イノベーション研究科は、CSIの4年間の取り組みも踏まえ、持続可能な社会の構築に貢献する「ソーシャルイノベーター」の育成を目的とした専門職大学院です。院生は社会人を中心とし、平日夜間オンライン、土曜日、休暇時期集中講義などを組み合わせ、仕事を辞めることなく、働きながら学びを深められる仕組みです。これまでCSIで担ってきた社会人人材育成を大学院講義の中に取り込みます。

カリキュラムは、MBAとしての基盤の経営基盤科目に加えて、思考科目、ソーシャル・イノベーション基礎科目、それらに加えて、経営専門科目と実践科目という、実践者育成にフォーカスした内容です。特に、これまでの専門職大学院に無かった哲学思考、アート思考、システム思考、セルフマネジメントなどの思考科目を充実させています。院生各自が具体的な実践テーマを携えて入学する大学院ですので、大学院開設後は、CSIの多様な取り組みが大学院生の実践にも関わってくると思われます。地域でのソーシャル・イノベーションをさらに加速させて行く新たな挑戦です。

CSI設置から5年目を迎える2022年春、新しいシナジーが誕生します。



ソーシャル・イノベーション研究科
WEBページ

2021年度 地域コーディネーター紹介



瀧内 貫 Takiuchi Toru 北信・中信担当

株式会社コトト 代表取締役、ミリグラム株式会社 取締役、一般社団法人ローカルイノベーションイニシアチブ 共同代表。地域に根ざし、ブランドデザインや各種広告などのデザインディレクションを手がけるほか、ソーシャルグッドのための活動やプロジェクトをコーディネートするなど、様々な分野の「橋を架ける仕事」として、グラフィックデザイン、コミュニティデザインを基軸としながら活動。単一の仕事に携わるだけでなく、多様なコミュニケーションや複数のプロジェクト企画などを組み合わせた、立体的なディレクションを得意とする。公私混合、仕事とプライベートの境目なく、長野県とその周辺をぐるぐる。関係人口的に通いつけている地域として、長野県木島平村、長野県根羽村などがある。

北信・中信担当 Fujiwara Masataka 藤原 正賢

1994年生まれ。長野県長野市出身。慶應義塾大学政策・メディア研究科修了。高校時代、廃線予定の鉄道を活用した企画に参画し、長野の魅力発信に関心をもつ。大学時代は、長野県出身の若年層が集まるイベント「信州若者1000人会議」の立ち上げやローカルに関心の強い35歳以下が集うイベント「小布施若者会議」の運営に携わる。そして2016年には地元である長野で根を張った活動を行う受け皿として、株式会社BAZUKURIをつくる。その後はイベント運営だけでなく、人と情報の調整を軸に様々なプロジェクトに携わっている。現在は長野県の移住総合WEBメディア「SuuHaa」の編集長も務め、移住や関係人口創出等の事業に携わる場面が増加中。移住等に関わらず、特に行政や企業の直ぐには結果が出ないが、これからに向けて大事なことを同じ目線にたって、一緒に取り組んでいくことが多い。「間」の役割として、学生と企業、行政と企業など様々なつなぎ役やキッカケづくりをコーディネートしている。



副島 優輔 Soejima Yusuke 東信担当

1983年生まれ。埼玉県川口市出身。2006年よりTV番組制作会社にて番組制作に従事。2014年より映像制作を通じたメディアリテラシー教育プログラムを企画、運営。2017年にはマンマーと日本の国際共同制作ドキュメンタリー「Dream Over Monsoon」をプロデュース。2018年より長野県佐久穂町へ移住し、地域おこし協力隊となる。ミッションは移住支援だが、「豊かなつながり」をテーマに、地域コミュニティ支援、災害復興、映像制作、人材育成など領域を横断して行う。メディア制作とファシリテーションのかけ合わせを得意とし、職員による映像制作のプロセスを伴走した映像作品がふるさとCM大賞NAGANOにて2018年に最優秀賞、2021年に八十二銀行賞を受賞。協力隊を退任した現在も映像制作のほか対話を重視した人材育成プロジェクトやファシリテーションを行う。価値観が多様化した現代で異なる背景をもつなかでも信頼と豊かな関係性の可能性を信じ、日々対話を続けている。

南信担当 Kitabayashi Minami 北林 南

1981年生まれ。長野県飯田市出身。下伊那郡松川町在住。天竜川ラフティングガイドとして観光客や修学旅行生の受け入れに10年以上携わり、地域の魅力について関心を持つ。南信州在住アーティストの海外ツアーサポートの経験から「南信州の自然×国際的アーティスト」が生む地元の魅力発信のコンテンツを企画。飯田市山間部にて野外ジャズイベント「伊那谷サラウンド」を開催する。その後、地元アーティストのライブ企画や運営サポート、海外在住アーティストの日本ツアー長野公演のプロデュースをする中、学生対象のワークショップや地域企業とのコラボ企画など、アーティストと地域住民との交流を図っている。

また、グラフィックデザイナーとしてディレクションや取材・執筆・デザイン制作のスキルを活かしながら、伊那谷の文化的活動を伝えるフリーマガジン「伊那谷回廊」創刊。現在はデザイン思考や広告制作に関するワークショップも企画・開催し、企業の価値創出支援や行政の広報サポートなど、地域の魅力を伝えながらまちづくりに携わっている。



「信州」というフィールドで生きる クロストーク

Cross talk

長野県立大学も4学年が揃い、卒業生を送り出す年を迎えました。CSI設立から4年目という節目を迎えた今、県内各エリアで起きている新しい動きに着目することで、「人の働き方と地域における存在意義」について再考していきます。すでに県内で精力的に活動を展開し、人と人をつなげるハブの役割も果たされている3名にお話を伺いました。



聞き手：長野県立大学CSI 須藤 展啓

一本日はよろしくお願いいたします。皆さん、県内各地で活動を展開されていますが、自分の人生が「信州」という地域と重なり合うことで作られた「場」と、それぞれが思うなりたいイメージやビジョンをお聞かせください。

徳谷 こちらこそよろしくお願いいたします。僕にとって「場」というと、長野市内にある「シンカイ」ですね。ここは築120年の古民家で、以前は信州大学の学生さんたちがそこで暮らしながら、1階スペースを開放して活動していたのを僕が引き継ぎました。いわゆる商業的に利益を得るお店をやろうということではなく、斜めの関係性が生まれる場所というのかな。近所のお年寄りや通りかかった観光客、地域の人や県外の知り合いなど、僕がコントロールしなくても思いもよらぬ出会いが生まれる場になっています。古民家を潰すのは簡単で、町の明かりって消そうと思ったら簡単に消えてしまう。でもこれまでなんとか受け継がれてきて、今は僕の代になっている。この「場」があることで、誰かの人生の一助になれているとすれば、それでいいなとは思っています。次の代がどうするのかはわかりませんが、盆栽のようにオーナーを代えつつ受け継がれていければ素敵だなと思います。

藤岡 盆栽のように、っていい考え方ですね。私は軽井沢で暮らしているんですが、軽井沢ってリゾートのイメージが強いと思います。でも住民が日々暮らしている場所がもちろんあって。今は町の南エリアにあたる「発地」というところで、森小屋みたいな「ほっちのロッジ」という診療所をやっています。在宅医療を中心としているのですが、私は診療所という機能を超えていきたいと思っています。具合が悪いから診療所に行くのではなく、森の中に小屋があるから誰かにちょっと会いに行こうとか、ちょっと遊びに行こうとか、そんな風に思ってもらえる森小屋になりたいと思っています。

坂下 すごく素敵ですね。私は木曾町で「ふらっと木曾」というコワーキングスペース兼シェアキッチンの運営に携わっています。ここはコワーキングというより、情報を共有する「場」のようになっていますね。地域おこし協力隊だった3年間は2人で、去年の4月からは8人で活動を展開しています。みんな各々やってみたいことをやり、そこに人が集まってくる感じです。さっきの盆栽じゃないですけど、私も「ふらっと木曾」には木のイメージがあるんです。メンバーたちが地域に深く根を張って、いろいろな出会いから養分を吸って木が成長して枝となり葉となって、また誰かが枝に止まるような、そんな風につながっていったらいいなと思っています。

— 皆さん、常に変化を続け、枠にはめずに自分のコントロール外で起こる「何か」を大切にしているように感じます。逆にいうと大変なことも多いと思うんですが、なぜ続けていけるのでしょうか。面白さはどんなところにあるのでしょうか。

徳谷 これはいろいろな見方ができるというか、多面的だと思うんですよね。僕は

オーナーだけども店にはほぼ立っていません。続けられる理由を打算的に言うと、僕が全国を飛び回っていても、「シンカイ」という場があることによって「柿次郎さんって長野の人だね」というイメージの残像を残し続けられる装置になっていると感じます。僕が会社でやっていることのエッセンスを広く告げる装置として、やり続ける意味がある。人との出会いもこの「場」があるからこそで、つながりもたくさん生まれているので、あと10年やったら学校の先生のような感じになれるかも。僕が60歳になっても会いにきてもらえる再会の装置として、「場」を継続させることは偉大だと思います。

藤岡 再会の装置って、カッコいい表現ですね。私は常々、もっと暮らしの中に当たり前前に「あの人は今生きて、老いていく」という風景がちゃんと存在してほしいと思っているんですが、病院とか診療所に入って自動ドアがシュンって閉まった瞬間に、その人はもう存在しなくなってしまうという印象がこの10年ずっと変わらないんです。だからこそ「ほっちのロッジ」は幼小中の混在の近隣にあって、暮らしの中にお互いの存在を感じ合えることを大切にしています。当たり前前に両者が存在する光景を、この時代に合うような形で作っていきたくいです。今、中学校の生徒たちは、医者と一緒に訪問診療に同行しているんですよ。ケアの現場と教育の現場が混ざり合うことで、これまでとは違う関係性が生まれてほしいと願っています。他にもさまざまな活動を通して、悩みや思いを抱えた人たちが集まる「場」であり続けたいと思います。

坂下 私の場合は単純に人と出会うことが好きなんです。都会からテレワークに来た人や、滞在して仕事をする人、放浪してふらっと木曾に来てくれた人、そういう人たちと出会って話を聞くことで、自分の価値観が広がっていくのが楽しい。それが続けられる理由なんだと思います。今、地元高校の授業に関わっていて、面白い大人を紹介して生徒たちが興味をもった人にインタビューするというようなことをやっています。いろいろな生き方を選択した大人と出会うことで視野を広げる、そういう「人と出会える場」を作ることを、これからもずっとやっていきたいと思っています。

— それぞれの視点で続けることの意義や面白さを感じていらっしゃるんですね。では、自分の行動が自分の周りや地域に、どんなインパクトを与えていると思いますか。

徳谷 めちゃくちゃ移住させています。

一同 おーすごい！

徳谷 雇用を生んで税金を納めて、そして多目的に観光客も増えている。長野県の移住総合Webメディア「SuuHaa」に関わる中で、移住に関する資料の問い合わせ数が500件くらいありました。知り合いも含めて、僕の知る範囲でも10組ぐらいは移住しています。これはもう仕事の域を超えて、自分のプライベートを削ってでも好きな友達



株式会社Huuuu
代表取締役

徳谷 柿次郎さん

Kakijiro Tokutani

1982年大阪生まれ。長野県在住。Huuuu代表取締役。全国47都道府県のローカル領域を軸に活動している編集者。ウェブメディア『ジモコロ』『SuuHaa』、善光寺近くで店舗『シンカイ』を運営している。



福祉環境設計士
診療所と大きな台所があるところ ほっちのロッヂ
共同代表

藤岡 聡子さん

Satoko Fujioka

徳島県生まれ三重県育ち、長野県軽井沢町在住。24歳で老人ホーム創業経験を経て「長崎二丁目家庭科室」「診療所と大きな台所があるところ ほっちのロッヂ」など多様な人々が入り混じる風景を手がける。共著に『社会的処方』(2019年、学芸出版社)他



ふらっと木曾
コーディネーター

坂下 佳奈さん

Kana Sakashita

1991年富山県生まれ。2018年に木曾町へ移住。コワーキングスペース「ふらっと木曾」や地域の新しいモノコトをつくる実践プログラム「里らぼ」の運営に携わりながら、木曾にてコーディネーターとして活動。

や信頼できる人のために、1泊でも2泊でも長野をアテンドしています。なぜできるかというと、自分が好きで選んだ長野を友達にも好きになってもらいたい、住んでもらいたい。そして一緒に遊びたい。長野県の各エリアのプレイヤーとつながっている人間は少ないので、その役割を僕が担っているんじゃないかと思っています。

藤岡 インパクトという意味では、昨年1年間に私たちのチームが往診した数と、町の救急車が前年度稼働した数がほぼ同じだったということ。200件弱なんですけど、今まで救急車を呼んでいた人たちが、「ほっちのロッヂの医者を呼ぼう」にスライドしたということです。救急車は病院に早く運ぶことが主目的ですが、私たちは救急の前と後も全部ケアチームがサポートしています。そして結果的に、このまちで生きるを終えることができるようになった。どこか遠くの病院で終わらなくてもよくなった。私たちが地域の人たちを支えられていると感じています。また、子どものことを安心して相談できる場所が少ないので、そこは喜ばれているし役に立てていると思います。

坂下 インパクトといえるかわかりませんが、「あの人たち面白そうだし、私も何かできそう」みたいな感じで、訪れてくれる人が増えています。相談しやすい雰囲気というか、とりあえずやってみようという肯定感を感じていただけているなら嬉しいです。

徳谷 最近、若い子と話していると、何かをやるのがすごく難しいことになっていると感じます。僕自身は Do or Die っていう精神なんですけど、それだと強すぎるんで最近は「Do or Do でやるしかないよ」って言っています。

藤岡 Do or Do ってすごい言葉。

徳谷 「やる」の中にも選択肢はいっぱいあるはずなのに、やらないことを選択肢にしてしまう。多分、僕と話している段階で何かやりたいことがあるのだとしたら、「やればええやん」としか言えない。それを大人や社会が支えていけばいいだけなのに。

坂下 私は都市部から長野に来て、やろうと思ったらやれる環境が揃っているように思いました。町がコンパクトで人同士がつながっているので、すぐに大工さんや音響屋さんが助けてくれる。声を上げれば何かしらできる人たちが手助けしてくれます。

徳谷 それって大事ですよ。Do or Do でやってみたらできないことが山ほど可視化されて、周りの人にヘルプを出す。そこからコミュニティにつながっていけるんだと思います。そういう意味では、長野は踏み出しやすい場所だと思います。

— 今、自分のやりたいことがわからないと悩む学生や若い人が多くいます。少し年上の先輩として、どういふ一歩を踏み出せばいいか、エールをいただけますか。

徳谷 僕がよく言うのは「旅に出よう」ということ。それは本当にわかりやすく、「自分が何も知らないということ自体を知れよ」と言っています。世の中に100の知識があるとしたら今は1以下なんです。僕だってまだ3ぐらいかもしれないですけどね。旅に出てリアルな体験を通して、こういう暮らしがあるのかとか、こういう仕事をしている人がいるんだとか、そういうことを知ってこいと。ロールモデルみたいな総数を旅の中で拾い集めていくことが、自分のやりたいことを見つけ出す装置になると思います。

藤岡 都会って情報が多いようにみえて情報がないような気がします。地方は何もないから全部自分でやる。だけど困ったら顔の見える関係の人たちが手を貸してくれる。自分の気持ちで挑むから、本当に必要な情報を吸収できる幅が違うんだと思います。

坂下 結局、自分の好奇心とか違和感に正直であることが大切だと思っています。悩んで決めたらやってみる。そして突き進んだ先で違和感を覚えたら、それも正直に認める。私は就職して営業も楽しかったし、夜に飲み歩いて人と話すこともすごく楽しかった。けれどいつからか虚無感があって、何が自分に蓄積しているんだろうと思ったときは転職も考えましたし、違う環境にいきたくて思いました。それは別にダメなことではなく、違うと思ったときに自分が本当にそれを続けたいのか問いつけることができれば、どこへ行って何をやっても大丈夫じゃないかと思っています。

— 最後に今後、長野県立大学とやってみたいことがあればお聞かせください。

徳谷 考えてパッと出てきたのは、「やんちゃの社会学」的な講義。長野にきて思うのは、真面目な人が多いということ。学生も、それこそイノベーションとか、起業とか考えすぎている。何者かにならなければいけないと思いつめてしまいそう。だからこそ、全国からいろんな生き方をしてきた大人を集めてしゃべらせたら、どちらにとっても良い影響があると思います。そういう装置として「講義」というフィールドを使えば面白そうですね。

藤岡 私、サテライトでもいいから軽井沢に大学を作ってほしいとずっと思っていて、言い続けているんです。たとえば、県立大の学生さんがこの町をベースに、「旅に出よう」のミニ版「まちに出よう」を体験するとかね。長野県立大学が、もっと分散して県内で活動してほしいですね。

坂下 分散してほしいのは同じです。今、「ふらっと木曾」にインターンで県立大の1年生が一人きているんですが、地域に18歳から22歳ぐらいの人が全くないので、大学生がいるっていうだけで元気がでるといふか。中学生や高校生にとってお兄さんやお姉さんがいるっていうのは新鮮なので、ぜひお願いしたいですね。◆

4年間を可視化する

2021年、大学キャンパスには1年生から4年生までが揃いました。
CSIは県立大学のイノベーション創出機関として、この4年間で長野県内の多くの地域、企業、団体、行政の皆様と関わりながら「挑戦するエコシステム」の醸成を進めてきました。包括連携協定、各種起業塾、公開講座などのデータ、そして直接関わりを持てた地域をマッピングすることで可視化しました。

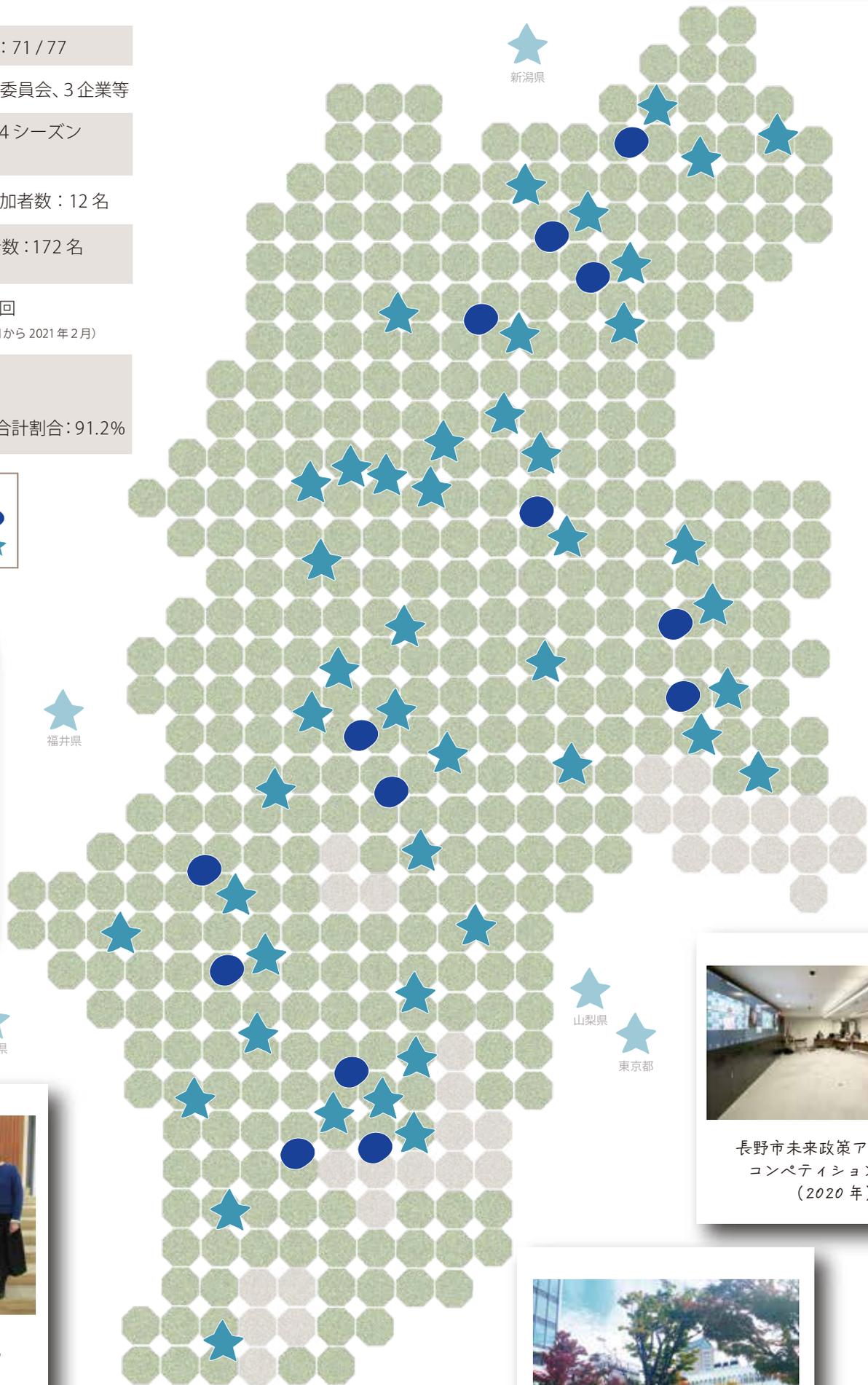


第1期
信州ソーシャル・イノベーション塾
(2018年)

Action Data (2018年4月から2022年2月末まで)

- ・CSIが直接関与した長野県内市町村数：71/77
- ・連携協定：6自治体、1教育機関、1教育委員会、3企業等
- ・信州ソーシャル・イノベーション塾：4シーズン
5コース 累計参加者数：58名
- ・専門職向け起業塾：3シーズン 累計参加者数：12名
- ・各種起業塾等実施等：12種 累計参加者数：172名
(主催：県・地域振興局・市)
- ・デリバリー・アカデミア：累計実績 9回
累計参加者数：442名 (実施時期 2019年11月から2021年2月)
- ・公開講座等 累計実施回数：42回
累計参加者数：1612名超
実施後アンケート「非常に満足」「満足」合計割合：91.2%

- ・CSI、地域CDが関わったところ… ●
- ・公開講座等でご縁があったところ… ●
- ・塾生でご縁があった方々のところ… ★



信州ソーシャル・イノベーション
フォーラム 2019
(2019年)



UNMUTE YOURSELF
『グローバル』サイコウ!?
(2020年)



長野市未来政策アイデア
コンペティション 2020
(2020年)



KENDAI MARCHE
(2021年)

このようなこれまでの蓄積と厚みの上に
2021年の活動がありました。

連携協定・知の拠点

本学と長野市は2018年7月に包括連携協定を締結し、様々な取組を連携して行っています。長野市は、市が抱える様々な課題を効率的に解決し生活の質を大きく向上させる手段としてデジタル技術を活用し、持続可能なまちづくりを目指す「スマートシティNAGANO～市民と創る最高のまちづくり～」の実現のため、産学官金の連携・共創による推進主体「NAGANOスマートシティコミッション(NASC)」を2021年10月5日に設立し、本学も設立当初から参画しています。また長野市の発展に貢献したい意欲のある高校生以上25歳以下の若い世代がNASCの活動に積極的に参画できる「NASCインターンシップメンバー」には、本学から10名が登録しています。

今年度はNASCが開催する勉強会に参加し、サーキュラーエコノミーの先進事例を知り、長野市が目指すべき未来をディスカッションすることで、参画企業との新たな繋がりが生まれました。また本学学生も「NASCビジネスコンテスト」に応募したり、NASCビジョンを検討する「妄想会議」に参加したりと、積極的に参画しています。CSIが目指してきた大学内外の多様な人々や知的資源、地域や企業など、多様な人々が絡み合う「オープン・イノベーション」が長野市で進んでいます。

NAGANOスマートシティコミッション



写真提供：長野市



協定第1号となった長野市との締結（2018年）

長野県立大学がこれまでに締結した協定一覧（2022.2.末現在）

No.	締結年月日	締結先	協定の種類
1	2018.7.10	長野市	包括連携協定ほか
2	2018.9.11	飯山市	包括連携協定
3	2018.10.5	千曲市	包括連携協定
4	2019.2.5	長野県、日本ユニシス(株)	ソーシャル・イノベーションに関する連携
5	2019.3.15	中野市	包括連携協定
6	2019.6.4	須坂市	包括連携協定
7	2019.11.8	KDDI(株)、NICOLLAP	包括連携協定
8	2020.1.31	長野高専	包括連携協定
9	2020.8.4	長野県教委、KDDI(株)	包括連携協定

デリバリー・アカデミア（旧出前講座）



地域の「知の拠点」として地域に開かれた大学、地域の皆さまとともに歩む大学を目指しています。その活動の一環として、本学の教員が講師となり、地域の皆さまに生涯学習（リカレント）の機会をご提供しています。



2021年度「デリバリー・アカデミア」実績一覧

実施年月日	講師派遣先	テーマ	講師
2021.5.13	木曾青峰高等学校	だれでもできる哲学対話	馬場 智一 准教授
2021.10.23	長野上水内教育会	だれでもできる哲学対話	馬場 智一 准教授
2021.10.26	須坂市立東中学校	だれでもできる哲学対話	馬場 智一 准教授
*2022.3.25	長野市生涯学習センター	変わりゆく企業モデル	大室 悦賀 教授

(* コロナウィルス感染防止等重点措置のため中止)

大室センター長 講演、委員会等活動実績

- | | | |
|---------------------------------|--------------------------|---------------------------|
| 4月 - 旅するラボ キックオフ | 10月 - あいだの哲学道場③ | 2月 - 軽井沢町講演 |
| 5月 - Next Commons Lab | - これからの長野県教育を考える有識者懇談会 | - NUPRI 講演 |
| - 旅するラボ キックオフキャンプ | 11月 - 飯山Good Business | - あいだの探索・実践ラボ（実践編③） |
| 6月 - TSUNAGU Fashion Laboratory | - ソーシャルベンチャー活動支援者会議（SVC） | - 県くらし安全・消費生活課 助言 |
| 7月 - あいだの探索・実践ラボ | - Next Commons Lab ゼミ | 3月 - これからの長野県教育を考える有識者懇談会 |
| プレオープンイベント vol.3 | 12月 - 長野県中小企業団体中央会 講演 | - 「未来の学校」木曾青峰高校 |
| 8月 - 旅するラボ サマーキャンプ | - NHK 社員向け勉強会 | - 飯山 Good Business |
| - あいだの哲学道場① | - あいだの探索・実践ラボ（実践編①） | - 経営実践研究会 |
| 9月 - コミュニティーベースドエコノミー | - ミラツクフォーラム | - あいだの探索・実践ラボ（実践編④） |
| - あいだの哲学道場② | - 旅するラボ ラーニング・ジャーニープラス | - 旅するラボ スプリング・キャンプ |
| - JICA 訪問 | 1月 - あいだの探索・実践ラボ（実践編②） | - あいだの探索・実践ラボ（実践編⑤） |
| | - 「未来の学校」木曾青峰高校 | |

学生の活躍！

CSIは、学生の起業や地域との連携支援も行っています。
楽しみながら地域と繋がり可能性を広げていく、そんな学生の活躍を紹介します。

• ODDO coffee 小倉翔太



私たちは、「コーヒーから発見を」を合言葉に浅煎りのスペシャルティコーヒーを生産地ごとに分けて焙煎・販売しています。

#スペシャルティコーヒー
#シングルオリジン
#発見から共感へ

2021年10月に三輪地区で約50名参加の映画上映会を開催し、食品ロス削減を意識したお菓子やリーフレットなどの配布も行いました。今後も地域と連携しながら活動をしていきたいです。

#食品ロス #もったいない #SDGs



• 食品ロス削減啓発グループ「もったいないランド」
太田夕音・井口由佳子

地元である松川町で、「ワクステ」という松川町の面白い人にお話を伺うネットラジオをはじめました。地域の素敵な方々とつながるきっかけになり、自分自身にとっても大変良い経験となっております。

#松川町 #ネットラジオ
#ワクステから共感へ



• まつまえももこ



地域の方々から不要になった服を譲り受け、次の使い手に受け継ぐことを目的とした古着屋をやっています。

#古着 #寄付
#古着を通してまちをみる



• TRIANGLE 青木寛和

• 菊地 美希



国際学生ゼロカーボン会議にパネリストとして参加し、2つの講演会を主催した経験と、そこから感じたことをお話しします。

#きっかけをくれた皆ありがとう
#目指せ、才色兼備
#you_do_not_have_to_be_an_expert.



• KENDAI MARCHE
小宮山文登



KENDAI MARCHE

長野市内で、学生と地域の方を集め、地域のマーケットを主宰しています。地域の方と学生のつながりの場になっています。来年度も頑張ります！

#地域と学生 #チャレンジできるプラットフォーム
#楽しいを形に！

上田染谷丘高校の生徒さん10人と一緒に探求の授業として上田市や千曲市、東御市の名産を使用した生キャラメルをゼロから作りました！

#商品開発#できないことなんてない！#夢は口に出したもん勝ち

WARIBASHI

WARIBASHI
長谷川真希



高橋 郷

これからやりたいこと：
学校の尺度ではない別の尺度の存在を中高生に知ってもらう。主体性を育みながら、多様な価値観を知るというプログラムを作りたい。

#地域#多様性#人間性



本と気軽に触れ合っほしい、という思いで1Dayブックカフェイベントを開催しました。まず行動し、反省しながらアップデートしていきます。

#目次を楽しむ#本を楽しむ
#古本交換#持続可能性
#事業化

BOOK Café KAI 吉川遼



服のレンタル兼販売をしています。売る人、そこにある服、買う人の三者を、自然に繋げられるように頑張ります。

#服のレンタル#ちょこっとSDGs#資金不足

RENTAURAL 小関一矢

RENTAURAL

天然素材のハイテク最強人工芝を使って池の平ホテルにて施工をお手伝い。社長である濱口さんが抱いた悩みを解決するために作られた芝。

#悩みを解決#社長の熱意
#楽しく元気に

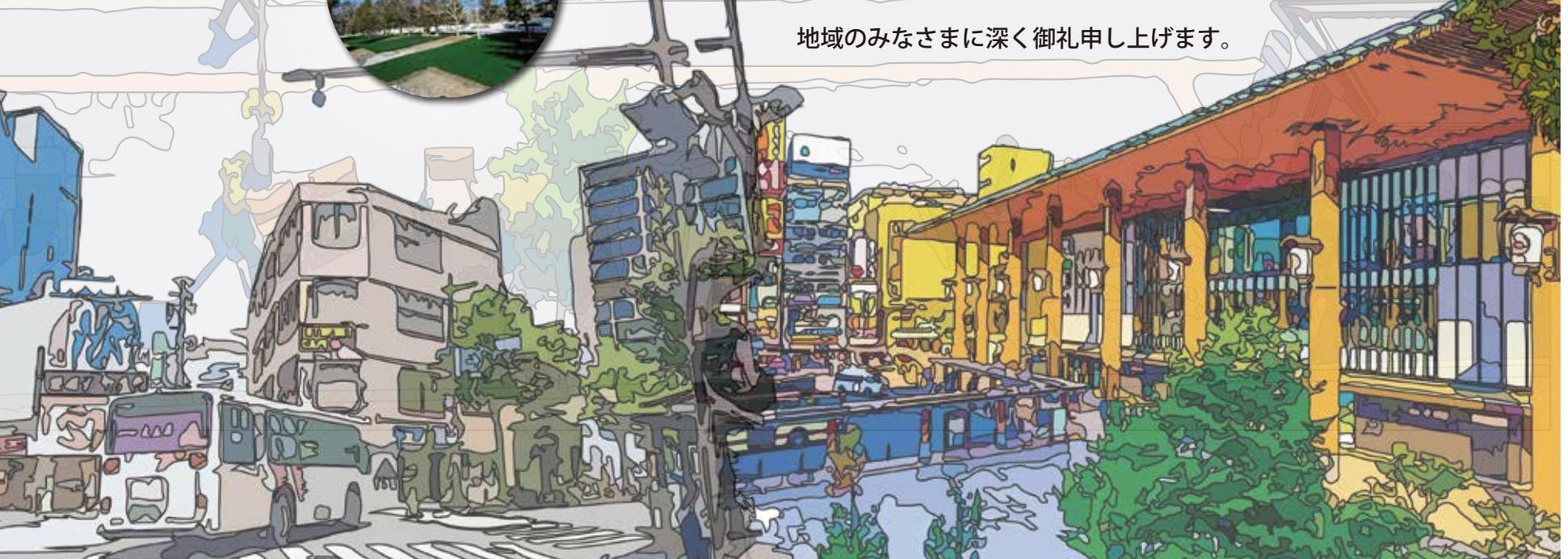


COOOL 増田卓真

どの学生にもたくさんの地域の大人の方々が暖かくサポートしてくださっています。学生と関わる地域の大人の声は随時、WEBで更新予定です。



地域のみなさまに深く御礼申し上げます。



公開講座

CSI公開講座およびコラボ公開講座は、学生も参加し、地域の皆さんとともに未来を考える共創的な学びの場です。全てオンラインで実施したこともあり、他県や海外などから多様な方々にご参加いただきました。受講者の皆様の感想とともに紹介します。

グローバルな課題はローカルに答えがある!? よそ者・若者を受け入れ、変わり続ける小布施町のいま



実施日 ■ 2021年6月22日

ゲスト ■
一般社団法人
小布施まちイノベーションHUB
日高 健 さん (事務局長)
遠山 宏樹 さん (教育・人材育成担当)
林 志洋 さん (新規事業創出担当)

小布施町で進行中の多くのプロジェクトを紹介した講座。関係人口を増やすための工夫や電動キックボード導入前の実験的アプローチなどを紹介した後、ブレイクアウトやQ&Aでは大変活発な意見交換が行われました。

受講者の声

・行政の中だけでまちづくりをするのではなく、中高生や町外以外の人を集めて一緒にまちづくりをしているところがすごいと思いました。私は大学卒業後はまちづくりをしたいと思っているので、とても参考になりました。

ソーシャルインパクトボンド実装のハードルとその越え方



実施日 ■ 2021年8月12日

ゲスト ■ 鴨崎 貴泰 さん
(認定NPO法人日本ファンドレイジング協会
常務理事/社会的インパクトセンター長)

全国から、自治体職員のご参加が際立った回。事前予習動画で学び、当日の意見交換を増やす「反転学習スタイル」で、自治体における実際のSIB導入事例が理解しやすい講座となりました。

受講者の声

・PFSやSIBについての理解度が向上したことで、新たな政策立案の際の参考とできそうです。SIBの事例について知っている人はまだ少ないと思うので、今後も興味を持っていきたい。

『個人的ビジョン』と『パーパス(社会的意義)』のつなげ方 ~自分のワクワクから始まるソーシャルワーク~



実施日 ■ 2021年11月10日

ゲスト ■
小林 信彦 さん
(上松町地域コーディネーター 地方創生担当)
浅井 翼 さん(上松町役場企画政策係)

上松町を事例にやりたいこととパーパスを紹介し、それぞれが考える対話型講座。講座後に紙とペンを手にした思考の整理をしてみた人も多かったのではないのでしょうか。

受講者の声

・地域と共に作り上げていくイメージを持つことができました。個人の願いを社会の意味のあるものにしていくときの関係性をビジョンマップに落とし込むことも大切だと気づくこともできました。

チームで働く面白さ - のらくら農場に人が集まる謎を解く -



実施日 ■ 2021年12月14日

ゲスト ■ 萩原紀行 さん
(のらくら農場 代表)

農業イノベーターの考えるチームビルディング。サーバント型リーダーシップをベースに、メンバー個々の担当はありつつもそれを徹底しすぎない柔軟性を強調されていました。

受講者の声

・従業員の共通認識の醸成や士気向上、自由意志の尊重などを整備し、一方で不要なルールはつくらないという、ある意味ストイックな姿勢を貫いていると感じました。とても面白かったです。

サステナブルカカオ - カカオから知る課題解決の取り組み -



実施日 ■ 2022年2月4日

ゲスト ■
楊 殿閣 さん (一般社団法人ソリダリダード
・ジャパン事務局長)
及川有希子 さん (認定NPO法人ACE)
松本志織 さん (JICAガバナンス平和構築部)

カカオサプライチェーンの話題から児童労働解決策としてのブロックチェーン技術まで多くの知見が得られ、Q&Aも熱いやりとりが繰り返されました。

受講者の声

・幅広い主体が改善意識を持って課題と向き合うことが大切なのだと感じました。そのためにはまず、カカオの取引をめぐる現状をより多くの人々が知る必要があると思います。活発な質疑や意見交換ができて有意義でした。

地域とつながる「TEN TO SEN」



実施日 ■ 2022年2月20日

登壇団体 ■
NPO法人ライフワークレインボー
小布施町立図書館 まちとよテラス
NPO法人 MEGURU
一般社団法人〇と編集社
株式会社フォークロア

地域プロジェクトやインターンと、学生など様々な方をつなぐ対話型の講座。新たなつながりが多く生まれました。

受講者の声

・どの団体さんも地域の魅力を生かしたい、暮らしを豊かにしたいという思いをお持ちだということがわかりました。長野県が今後面白い地域になっていく可能性を感じました。

学内での取り組み

学生が地域に飛び出す下地作り

- 「在学中に『商い』に挑戦を」「自分のアイデアでお金を頂く取り組みに挑戦したい」などの声を受け、CSIでは「『商い』に挑戦してみたい学生のための勉強会～入門編～」(実施日 2021.12.22)を実施。知識だけでなく実際に起業している学生からの経験の共有も行われました。
- 現在は全員入寮体制ではなく後町キャンパスのCSIに來たことがない学生もいるため、10月から毎週水曜に三輪キャンパス出張相談デスクを実施しました。やりたいことの具体化、ビジネスプランの相談など、気軽な会話から様々なアクションが生まれました。来年度も実施予定です。
- 事業者と学生が課題解決のアクションを考える「地域の事業者さんの課題をともに考えるワークショップ」は今年度からの新しい取り組みで計3回企画。オンラインで実施。第3回目は副島地域コーディネーターの記事で詳報(P.14)。
- 長野県環境政策課が主催の「国際学生ゼロカーボン会議」や、FMぜんこうじ主催「高校生・大学生の環境ディスカッション～地球温暖化防止へNAGANOからの提言～」など、学生がイベントに参加する際のコーディネートをしました。第一生命保険(株)長野支社様と炭平コーポレーション(株)様のご支援のもと実施した「SDGs・地域貢献アイデアコンペティション」では、参加学生のアイデアブラッシュアップをサポートしています。

産官民学の連携

産官民学それぞれの得意分野を生かしながら連携して取り組むことにより新たな価値創出や地域課題の解決を推進しています。今年度は主に以下の事業を実施しました。

JIBUN発 旅するラボ 2021

県内各地の高校生総勢 32 名が「JIBUN発 旅するラボ ※1(略称「Jラボ」) 2021」に参加しています。この企画は、本学グローバルマネジメント学部1年生から4年生までの10名が運営の中心を担っています。身近な不思議、ちょっとした違和感から高校生が問いを立てることはとても難しいこと。世代が近い大学生は高校生には頼もしい存在。参画企業、団体の経営者や社会人にとっては高校生の中に立つ媒介機能を果たすありがたい存在です。

【Jラボ 2021 概要】

日程	企画	内容
4/24	キックオフイベント	Jラボ告知イベント
	Jラボ高校生エントリー期間	県内全校にアナウンス
5/29	キックオフキャンプ	自分で問いを立てる
	オンライン部活 ※2(定期開催)	ユニット内で問いを深める
8/7	サマーキャンプ	ユニット外との交流を通じて問いを見直す
	オンライン部活(定期開催)	ユニット内で問いを深める
12/4	ラーニングジャーニープラス(中間報告会)	経営者の生き様を知り、交流を通じて問いを深める
	オンライン部活(定期開催)	ユニット内で問いを深める
3/12	スプリングキャンプ	自分の立てた問いを自分なりに論理的に説明する

※1-Jラボ: KDDI 株式会社、長野県教育委員会、本学の包括連携協定締結を契機に、長野県中小企業家同友会も加えた4者で運営しています。
 ※2-オンライン部活: 高校生、大学生、社会人が5~6名のグループでユニットを編成し、それぞれの問いや日ごろの疑問などについて、多世代間の意見交換を気軽に行う活動のこと。



県内各地を巡り、さまざまな人々の生き方から学び、生きている地域を深く知ることを通じて、自分の立てた問いに向き合う、まさに「旅するラボ」がコンセプト。コロナ禍で思う通りに対面実施ができなかったのは残念です。

唯一対面で実施出来たのが、自らの問いを深め、広げている現状を共有する中間報告会を兼ねた「ラーニングジャーニープラス」。長野県中小企業家同友会会員企業である「株式会社牛越製作所(岡谷市・牛越弘彰代表取締役)」様と「株式会社エヌワイビー(長野市・山崎千弘代表取締役)」様にご協力をいただき、会社施設の見学に加え、代表自ら、会社経営や地域への想いを語っていただき、高校生とのフラットな対話にも参加していただきました。高校生からは「社長さんの声をこんなに身近に聞いたのは初めてだったので、その迫力に驚いたし、自分のこれからを考えるきっかけになった。」との声。基本的な内容はそのままに2022年度も続くJラボ。4月に開学するソーシャル・イノベーション研究科の講義担当者がそのエッセンスをお伝えする機会も計画しています。



JICA (独立行政法人国際協力機構)

パネル展

JICAにご協力いただき、CSIとグローバルセンターとの共催でSDGsや協力隊活動のパネル展示を本学内で行いました。グローバルな視点と地域活動へのインスピレーション獲得をとおしました。

飯山 Good Business Idea 発表会

2021年11月8日(月)、飯山Good Business Idea発表会を飯山市文化交流館「なちゅら」にて開催し、10名(当日9名)からグッドビジネスアイデアの発表が行われました。今年度から参加した3期生は、それぞれグッドビジネスラボ(個別相談)を受講し、当日は4名からの発表がありましたが、当初のラボ(個別相談)からは想像できないほど明確に、各々の事業に対する思いや地域に必要なとされるビジネスについて発信されました。今後はさらに事業者間での連携を深め、ネットワークの構築が期待されます。

(飯山市役所 総務部 公民連携推進室 山崎裕晃さん)



長野県みらい基金

合同会社キキ リビングラボ事業

今年度、公益財団法人長野県みらい基金の「次の信州創生プロジェクト」の一環として、「ハタラクラボ」を受託実施しました。

ハタラクラボは、地方での「自分が自分として働く」ことができるキャリアの作り方を考える取り組みとして、大学生が中心になり行っている活動です。ハタラクラボでは自分の選択で、自分にあったキャリア形成ができる学生・社会人を増やし、許容し、応援しあう地域をつくることを目指しています。

今年度は、「働く」を考える場を、地域で生きる先輩方の話を聞いたり、問いを全員で考えながら、会が終わった後も考え続けることができるような会を設計してきました。また、活動している学生や、興味ある学生が集まる場を月に1回オンライン運営。

やっとコミュニティが作れてきたところなので、これからもっと実験的にさまざまな物事を起こしていきます。

(合同会社キキ 代表社員 九里美綺) ※合同会社キキは本学学生(在学中)が起業した会社です。



まちの課題って何だろう? NPOを通じて知る地域課題

長野県みらい基金にご協力をいただき、県内で精力的な活動をされているNPO法人5団体と学生がオンラインで交流。学生が地域課題を知り、関わり方のきっかけを得る機会となりました。

【参加いただいたNPO法人】

ITサポート銀のかささぎ(長野市)

Happy Spot Club(千曲市)

Gland・Riche(安曇野市)

ぐるったネットワーク大町(大町市)

こどもサポートチームすわステップハウス(諏訪市)

人材育成

今年度も様々な社会人の人材育成を行いました。コロナ禍という制約がありながらも、多様な人材同士が繋がることでより多くの発想が生まれ、可能性が広がっています。

信州ソーシャル・イノベーション塾

塾長：秋葉チーフ・キュレーター / 講師：稲垣 聡一郎氏 (Transform LLC.Co-Founder and Partner)
開催：2021年11月19日～2022年2月18日 (全4回) オンライン形式



毎年開催している信州ソーシャル・イノベーション塾、今年も開催しました！コロナ禍が長く続き、不安を抱える方や未来への展望が持てない方が多いため、今年は「自分を整え、前に進める状態を自分でつくる」ことを目的とし、内容をセルフマネジメントに集中して4日程で実施しました。回が進むにつれ参加された皆さんの表情がどんどん変わり、新たな気づきの中でいつもと違うチャレンジを皆さんが実践され、その結果をオープンに話せるようなネットワークができたこと、とても嬉しく思います。

(講師 稲垣 聡一郎さん)



受講者の声

いかに固定観念にとらわれているかを、改めて実感できた / 自分の変化に気づいたので非常に満足しています / 自分を客観視できる機会、参加者の方々がどんなことを考え感じているかを知る機会をいただきありがとうございます / ストレスとの付き合い方や自分の感情がどのゾーンにあるかを客観的にみることを意識しながら日々を過ごしていきたい。たった4回とは思えない密度の濃い時間を過ごさせていただきありがとうございました。

KISO 女性・若者起業塾

長野県木曾地域振興局主催 (全3回オンライン形式)
2021年8月4日～9月15日



KISO 女性・若者起業塾は開塾3年目を迎え、これまでの参加者は延べ42名です。受講生からは「なにかをやろう！」「やりたい！」というパワーを感じ、主催者も刺激をいただいています。塾の中では、夢(「〇〇年後の私」)を書き出し、お互いに話し合うというワークがあります。人にやりたいことを話すことは、起業するしないに関わらず、人生の実現に大切なことと感ずります。今期は急遽オンラインでの開催となりましたが、受講生からは「仲間同士で話すことで頭が整理された」「前向きになれた」との声をいただきました。木曾地域は長野県内でも過疎・高齢化が進んでいる地域ですが、卒塾生の活躍で、これからも木曾のみなさんがいきいきと暮らし生きていくお手伝いができればと思います。

(長野県木曾地域振興局商工観光課 丸山 和希さん)



受講者の声

どんな人生を生きてきて、これからの人生でどんなことをやりたいのかを考えることは、良い経験でした / 私の参加理由は「地域での仲間づくり」独りより協力できる仲間がいたらどんなに心強いでしょうか / 未来から逆算する、お金だけじゃない考え方…今のビジネス界では聞けない話だと思います

地域おこし協力隊起業塾

長野県北信地域振興局主催 (全3回オンライン形式)
2021年7月20日～9月3日



北信地域の地域おこし協力隊に向けて、起業家精神を学ぶための貴重な機会を創出することができました。豊富な知識とご経験を持つ秋葉チーフ・キュレーターから、自分のやりたい事業を深く考える思考法やビジネスモデルなどをじっくりと学ぶことができ、協力隊としての活動に取り組む傍ら退任後のビジョンも見出していかねばならない隊員にとって有意義な時間となりました。参加者から、起業や行動を起こしてみようという気持ちが増したと感想が寄せられました。

今年で3年目となる起業塾。卒塾生には実際に起業した方もいます。これからも、起業塾のテーマである「好きを仕事に」して、この地域を盛り上げてくれる起業家が誕生することを願っています。

(長野県北信地域振興局企画振興課 横澤 光恵さん)



受講者の声

アイデアをダメな理由ではなくどのように実現すればいいかという考え方は私にとって新鮮でした / バックキャストリングなど起業に係る現代の思考法が特に印象に残っています / 起業戦略としてブルーオーシャンを探すこととSDGsを入れ込むことが大切で、これがないと生き残れないと学びました

地域おこし協力隊向け起業なんでも相談会

長野県上伊那地域振興局主催
2022年1月28日 (オンライン形式)

やりたいことがあっても、どうビジネスにしていけばいいかわからず、前に進めない方もいると思います。今回は、個人の状況に合わせて、段階ごとに考えるべき視点を示していただき、参加者から満足の声をいただいたとともに、主催者としても大変勉強になりました。今後も、地域で頑張っている協力隊員の方々の背中を押してあげられる機会を作っていきたいと思いました。

(長野県上伊那地域振興局企画振興課 米持紗希子さん)



受講者の声

関心があること、得意なこと及び現在の環境でプラスになっていることを列挙したことで、頭の中でぼんやりと思っていたことが改めて認識でき、すっきりしました / 起業相談会はとてもいい機会だと感じましたし、もし可能であれば伴走型の起業サポートが受けられると良いなと思いました

保健医療福祉専門職のための起業塾 ～セットアップ編～

Seedling Field / CSI 共催
2021年2月11日、3月6日、4月19日、5月10日 10時～16時

“夢への一歩”

専門職の強みは、想いの強さ、技術などを持っていること。一方で自分の身一つで稼ぐ、お金を回すことが苦手です。2020年から毎月定例会 Seedling Field でモヤモヤを語り、そろそろ動きたいけど、あと一歩が踏み出せない専門職にCSIと共催で起業塾を開催しました。サポートを受けながら、トライアルが何回も行われています。「ママが集まって料理を作る。コロナ禍だからこそ家族の夕食分として持ち帰る。子どもたちは保育士と里山を探検に行く。」料理が苦手な人の調理実習ではなく、ママも家族も Happy になる企画。一歩ずつ前進です。

(Seedling Field 三井洋子さん、宮崎紀枝さん)

保健医療福祉の専門職のための 起業塾 ～セットアップ編～

起業ゼロからの準備がとて大変だと聞かれます。どんなことに課題を感じ、どんな解決方法を考えているのか、どんな未来を作りたいのか… 外資系職の進化にも対応できる新しい働き方を作ってスタートしましょう。

塾の形態 原則オンライン開催(可能であれば集合研修)
参加者の状況により内容は変更する場合があります
コース内で個別相談もおこないます

塾長 長野県立大学CSI(ソーシャル・イノベーション創出センター)
チーフ・キュレーター 秋葉 芳江さん

2月11日(祝) 10:00～16:00

事業計画の根本を考える

※事業を起すには何を考えればいいのか
※したいことを言語化する
※ビジョンメイク

3月6日(土) 10:00～16:00

強みを生かした事業を考える

※強みと外部環境を生かした取り組みを発案させる
※自己のリソースを抽出する

4月(平日調整中) 10:00～16:00

マイ構想から事業計画案へ

※マイ構想のレビュー
※創業への具体策の考え方と基本的な情報を知る

5月(平日調整中) 10:00～16:00

他者に語る事業計画案へ

※事業計画のレビュー
※創業準備の実務指導



屋代高校
SDGs 講演会



屋代高校では2学年でグループによる探究活動に取り組んでいます。近年はテーマとしてSDGsへの希望が増えており、秋葉先生にご協力いただき希望者対象に2回講義を実施しました。「SDGsの世界的意義と概要を理解し、身近な生活とのつながりを具体的に知ること」を目標に、熱心に質問しディスカッションに臨み、有意義な時間を過ごすことができました。

生徒からは「SDGsでの取り組みは決して他人事ではないと分かった。自分に出来ることを考え、それを周りにも伝えられるような研究がしたい」と感想が寄せられ、実際にプラスチックごみによる海洋汚染について1年間探究したグループが、「信州SDGsアワード2021」で県知事賞を受賞しました。アクションを起こし、環境を変えようとするエネルギー溢れる高校生を支援するためにも、このような講演会を今後も実施したいと思っています。

(屋代高等学校 SSH主任 手塚 理実さん)



農林水産省・
環境省・消費者
サステナアワード2021

生産と消費のあり方を持続可能に変えていく「あふの環 2030 プロジェクト～食と農林水産業のサステナビリティを考える～」に本学も発足の2020年から参画中。持続可能な取り組みを全国から動画で募集し表彰する「サステナアワード」も今年2年目。審査委員長として今年もお手伝いしました。長野県内から初の入賞(優秀賞(審査委員特別賞))も誕生。

あふの環 2030 プロジェクト
～食と農林水産業の
サステナビリティを考える～
WEB ページ



日経SDGsフォーラム

「持続可能な生産消費～商品の見た目ではない本当の価値を伝える～」。畑から食卓までに関わる方々との議論をファシリテートしました。野菜を選ぶ基準「きれい、安い、美味しい」に新しい価値「食品ロス」「CO₂ 排出削減」を追加することは新しいビジネスチャンスになる！国の「みどりの食料システム戦略」をチャンスにして持続可能社会への大転換を、1000名を超える全国視聴参加者と共有しました。



飯山高等学校
ソーシャルシネマ
・ダイアログ



2021年10月26日、1年探究科生徒を対象に、本校大講義室にてファッション界の闇を描いたドキュメンタリー映画「ザ・トゥルーコスト」を鑑賞し、内容に関する様々な問いを共有するワークショップを行いました。Google Classroomの「質問」機能を使い、生徒のコメントをチャット形式で共有する取組も行いました。物質社会が抱える大きな課題を知り、「今着ている服は、誰かが作ってくれたもの」という事実を、真摯に受け止めている生徒が多くいました。人権問題について学ぶだけではなく、同じ映像を観た生徒間にも様々な捉え方があることを体感できました。身近にある「当たり前」の中に、多くの課題があることに気づく良い経験になったと思います。

(飯山高等学校 SSH 委員長 理科教諭 池田 圭吾さん)

Sustainable Development Goals

SDGs

広く浸透してきたSDGs。
今年 CSIではアワードの審査や
高校での対話の機会をいただき、
以下の活動をしました。

長野県では、県内SDGs推進のために、今年から信州SDGsアワードを開始しました。小・中・高校生部門、企業・団体等部門の2部門に、県内の優れた取り組みのエントリーがあり、CSIから審査に関わらせて頂きました。

信州SDGsアワード

小・中・高校生部門では授業成果以外にも、放課後に自主的に取り組んだ事例もあり、頼もしい限りです。企業・団体等部門では、本学も登録している制度「長野県SDGs推進企業」が何社も受賞され、SDGsが浸透してきています。



本学のSDGsに関する主なトピック

- ペットボトルを使わないウォーターサーバーの設置
「プラスチックごみを削減したい」という学生の提案により、理事長裁量経費で学内に給水ボトル不利用のサーバーが設置され、マイボトル使用を促進しました。
- 電力を全て再生可能エネルギーで調達、国公立大学として初の再エネ100%大学達成
- 本学では、使用する電力を長野県の水力発電由来の電力100%で調達しています。この取組により第22回グリーン購入大賞「優秀賞」を授賞いたしました。
- 自然エネルギー大学リーグへの参加
日本国内の大学が脱炭素社会の実現に向け設立したリーグ。本学も世話人として参加しています。
- 国際学生ゼロカーボン会議への参加
気候変動や環境問題に関して世界の学生が意見交換を行う会議。本学から学生がプレゼンター、志村グローバルセンター長がモデレーターとしてそれぞれ参加しました。



地域での展開

自治体との対話

CSIは今年度も多くの自治体を訪問させていただきました。学生の活動先を広げるための地域 PBL(=Project Based Learning) に関する話し合いから、学生の卒業論文のテーマに関するヒアリング、大学院のご案内まで、今後のつながりを広げるための機会を多くいただきました。大学院案内のために訪問した伊那市役所での話をきっかけに、上伊那地域おこし協力隊向け起業なんでも相談会の実施につながるなどのセレンディピティもありました。また、松川町の訪問ではすでに本学学生が活動している状況を詳しくうかがうとともに、Vuild社の木工加工機 shopbot を利用したまちづくりの可能性について模索し今後の協力について話し合いました。これからも多くの自治体に訪問し対話を重ねていきます。



千曲市 総合計画策定



本学が連携協定する千曲市では、今年度、市政の柱となる総合計画の策定を行い、CSIから総合計画審議会委員(部会長)をはじめ、さまざまな関連イベントへの学生参加周知もお手伝いしました。策定プロセスは短期間でしたが、市主催のワークショップには、本学学生も参加し、住民の方々と共に、これからの千曲市の姿に思いを向けていました。「月の都千曲」の日本遺産活用、アンズ一大生産地、信州ワインバレー、子育てしやすい、教育の充実、若者が挑戦できる、防災減災、賑わい、暮らし続けたいまちに、など、多くの希望を、限られた資源でどのように実現するか。参加学生にも生きた学びになりました。総合計画案はパブリックコメントを経て市長に答申されました。

地域企業との取組

第一生命保険(株)長野支社様とSDGsに関する取組を連携して行なっています。2021年12月には地域住民を対象としたヘルスケアセミナーを開催し、食健康学科の石井陽子教授が「終末糖化産物(AGEs)と健康～老化を加速させるAGEsを増やさないために～」と題して講演しました。参加者から「健康寿命を意識して生活習慣を見直す良い機会となった」「データに裏付けられたお話で分かりやすかった」などの声が寄せられました。また、第一生命保険(株)長野支社様と炭平コーポレーション(株)様にご支援いただき、学生等のSDGsに関する取組を支援する「SDGs・地域貢献アイデアコンペティション」を初開催しました。地域の企業に支えられながら学生達の活動がますます広がっています。

第一生命長野北営業オフィス×長野県立大学
コラボ企画

第一生命は、第3期「長野県SDGs推進企業制度」に登録しました。長野市地域の皆様へ健康意識の向上に役立つよう取り組んでいます。長野県立大学の教授によるヘルスケアセミナーを開催します！是非ご参加ください。

**長野県立大学石井教授による
ヘルスケアセミナー**

日時 2021年12月2日(木) 14:00~15:00(受付開始 13:40)

会場 第一生命 長野北営業オフィス
長野市穂田1-26-17 地下ビル1F

講師 石井 陽子 氏
(長野県立大学 健康栄養学部 食健康学科 教授)

講演内容 終末糖化産物(AGEs)と健康
～老化を加速させるAGEsを増やさないためにできること～

定員 15名 ※定員になり次第、お申込みを閉じさせていただきます

参加費 無料

「対話」を重ね続ける大切さ

瀧内 貴 (CSI 北信・中信地域コーディネーター)

年間を通じて関わっていた事業はいくつかありますが、根羽村での職員研修、飯綱町での廃校管理するまちづくり会社支援、長野県内各地のプレイヤーとのアフターコロナに向けたビジョンづくり、長野市の都市ブランディングなど、さまざまな現場で「対話」を重ね続けていくことの大切さがより意識されているように感じています。コロナ禍において「会わないコミュニケーション」が増え、「会って話す」ことや「考えていることを伝え合う」ことの意味や価値を、ほぼ総じて感じていて、「私たち」のこれから描く未来のために「対話」が必要であると感じ始めている方が多くいらっしゃると思います。

考えていることを言語化して伝え、相手の考えを受け止め、それぞれを重ね合わせながら、「私たち」の意見や考えとしてまとめていく。それには真摯な姿勢が求められます。

これからも、そんな誠実な「対話の場」をつくっていくことを通じて、 commons の再構築に対して寄与していきたいと思えます。



「つなげる」からはじめるイノベーション

藤原 正賢 (CSI 北信・中信地域コーディネーター)



長野市スタートアップ成長支援事業の一環で「長野をつなげる30人」のプログラムを実施。その事務局をつとめました。「つなげる30人」は渋谷区でスタートし、全国数カ所で行われているプログラムです。行政、NPO、民間企業、教育機関等、普段は交わらない地域において重要な役割を担っている人達が集まり、半年間かけて自分たちがやってみたい新たな取り組みを生み出していきます。運営を行う上で大事にしているのは、短期的よりも長期的な視点を重視することです。

半年間のプログラムを通してつくる取り組みよりも、今回構築された参加者同士との関係性が5年後・10年後とつながり、新しい動きにつながっていくことを目指します。まだプログラムは終了していませんが、参加者同士のつながりを活かし、プログラム以外で新たな取組みも生まれています。県大学生や職員を含む参加者1人1人が他の業種・セクターの人と協働する大変さ・面白さを感じ始めつつあるところです。

これから5年後・10年後、振り返ると今回の「長野をつなげる30人」がキッカケとなった取り組みがいくつも生まれているかもしれません。

王滝村 × 長野県立大学 学生の地域挑戦プロジェクト

この春から、王滝村と長野県立大学が協力し、学生が村を訪問して地域の課題に挑戦する新しい取り組みが始まります。王滝村のキーパーソン倉橋さんとのご縁は2018年当初から。今回の直接的なきっかけとなった王滝村での学生の動きと、これからの展開についても倉橋さんに伺いました。



合同会社REXT 滝越：倉橋孝四郎さん、杉野明日香さん

確かインターン最初の頃「あなたが村長だったら王滝村で何をするか考えて2週間過ごしてほしい」と、インターン学生に伝えた所からスタートした気がします。何日か営業した後、大雨で客足が鈍ったため、皆で「観光とは？」という話を火を囲みながらしました。

その後も更に雨が降り続いた影響で、店がある滝越に続く唯一の道が大きく陥没し通行止めになるような事態に。それもあって学生と話す時間が増えました。

最終日も迫ってきた頃、学生から「ビジネスプランをブラッシュアップしてほしい」との提案を受け弊社関係者と聞きましたが「さすが県立大の学生」というプランでした。

その中で「王滝村に学生拠点を」という提案を受け、すぐに役場担当者にもプレゼンをして頂いたところ、「いいじゃん、それ」という反応でした。現在そのプランをもとに、学生が村づくりに関わる新たな計画が進行中です。

僕らもその提案からヒントを得て、現在は「学生・アーティスト・試住・地域の拠点作り」計画を立て実行に移そうとしています。県立大生からの提案のお陰で、王滝村も弊社も新たな一歩を踏み出そうとしています。感謝です。

(合同会社REXT 滝越代表社員 / 王滝村議会議員 倉橋孝四郎さん)

軽井沢町講演会

「中軽井沢まちづくりシンポジウム&ワークショップ」

軽井沢町では中軽井沢地域に暮らす住民同士のつながりを創出するとともに住民主体のまちづくりを推進する第一歩として、まちづくりに取り組んでいる方々を対象に、大室センター長が「地域コミュニティとしての商店街」と題して講演しました。約20名の参加者に2時間、国内先進事例やワークショップを交えつつ、住民が求める商店街の姿を探っていきました。参加者から「青空市をやってみよう」「ミニシアターがあったら楽しい」など多くのアイデアが生まれ、終了後には住民同士が交流する姿が見られ、新しいことが始まる予感がします。(2022年2月)



「地域の事業者さんの課題をともに考えるワークショップ」

副島 優輔 (CSI 東信地域コーディネーター)



2022年2月18日、標記ワークショップを開催しました。これは事業者の「取り組み」と「抱える課題」を学生に紹介し、共に課題解決に向けたアクションを考える、少人数制オンラインワークショップです。

この日は小諸市、東御市、上田市、佐久穂町などでソーシャルワーカー・ラジオパーソナリティーとして活躍する秋山紅葉さんをゲストに「心に思っていること、共有するにはどうしたらいいんだろう」をテーマに対話し、私はファシリテーションを行いました。

秋山さんには現在に至るまでの想いの変遷、コロナ禍での取り組みをお話し頂き、それを踏まえ、テーマについて対話。学生もフィールドは違えど人々の関係性に問題意識を持っていて、各自の経験に紐づけながら心の奥深く大切にしている哲学を語り合いました。

「対話について対話で考える楽しい時間」と、学生も活動へのヒントを得た様子で、秋山さんも「みんな(参加学生)と話すと、どんな年代の人も勇気をもらえますね。」とのこと。

コロナ禍により偶発的な人と人の出会いの機会が毀損され、それを生み出す難しさを私も感じているところですが、この日は、心温まる出会いが生まれるためのヒントとなる場だったと感じています。

森林ビジネスエコシステムの可視化に向き合う

北林 南 (CSI 南信地域コーディネーター)

2020年度から行われている、長野県立大学生の松川町イノベーター。今年は地域資源である「森林」と人との関係性までを考えたビジネスエコシステムマップの作成をテーマとし、県立大学生3名を含む計5名の大学生がオンラインで約3カ月間取り組みました。

生態系という壮大な自然界の摂理の価値について考え、それをコミュニティ・ビジネスへと応用していくことは、学生のみならず関わる大人たちにとっても非常に大きなチャレンジ。

経済的・物質的な豊かさとは違った「これからの暮らしの豊かさ」について考えることで、「循環」「多様性」「かけがえのないもの」といったキーワードが見出され、ビジネスエコシステムの可視化に向き合いました。

「地域資源の循環の中に誰もが主体的に入って行ける仕組みづくり」に向き合う頼もしい学生たちの姿に、これからの時代の地域の姿を想像しました。

活動報告会後は「今回の活動をパンフレットにして町民のみなさんに伝えたい」という学生たちの要望により、企画構成も学生たちがメインとなってパンフレットを制作(2022年4月に発行予定)。イノベーターをきっかけに個々に来町する学生たちと地域住民との関わりも生まれ出し、小さな町の未来を創造するコミュニティは、ゆるやかに拡がりを見せています。



組織概要

名 称 | 公立大学法人 長野県立大学ソーシャル・イノベーション創出センター
(Center for Social Innovation Initiatives,CSI)

設 立 | 2018年(平成30)年4月1日

所 在 地 | 長野県長野市西後町614-4(長野県立大学後町キャンパス)

2021年度
S T A F F | 大室 悦賀 センター長
公立大学法人長野県立大学グローバルマネジメント学部教授・企(起)業家コース長

秋葉 芳江 チーフ・キュレーター/Office SPES 代表

赤羽 久美子

須藤 展啓

小林 絵美子

制 作 | デザイン/小林絵美子
クロストーク/カシヨ株式会社

印 刷 | 株式会社 総合印刷

 <https://www.u-nagano.ac.jp/cooperation/csi/>

 <https://www.facebook.com/CSI.nagano/>

 csi@u-nagano.ac.jp

 026-262-1725

FAX 026-262-1726

 **長野県立大学**
THE UNIVERSITY OF NAGANO



長野県立大学は
「長野県SDGs推進企業登録制度」
第1期登録組織です

発行日 2022年3月30日

※本誌記載内容の無断転載はご遠慮ください

